

## 河内川ダムが完成 ～洪水・渇水に強いまちに～



昭和58年に事業が始まった河内川ダム(若狭町熊川)が完成し、6月9日に竣工式が行われました。

昭和28年や平成25年の台風による浸水被害、平成6年の干ばつによる水不足など、幾度となく水害や渇水に見舞われてきた若狭地域。河内川ダムの完成により、河内川・北川の治水での安全性が向上したほか、水道・農業・工業用水を安定して確保できるようになりました。

竣工式には大勢の地元の皆さんが参加。ダムを見て回り、完成を祝いました。

## ふくい健康の森リニューアル記念イベントを開催 ～子育て世代や若者が集う場所に～



4月にリニューアルオープンした「ふくい健康の森」(福井市真栗町)。子育て世代や若者の利用を促すため、アスレチック遊具を新設した「ファミリー健康広場」や、若者に人気のスケートボードを本格的に楽しむことのできる「スケートパーク」などを整備しました。

5月19日には、リニューアル記念イベントを開催。スケートパークでは、体験教室とプロのスケートボード選手によるデモンストレーション演技が行われ、プロ選手が高度な技を披露すると、周囲から大きな歓声が上がりました。

## トピックス ふくい

## 日本遺産認定!越前・石のまちづくり ～石から読み解く中世・近世～



一乗谷朝倉氏遺跡

白山平泉寺旧境内

地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を伝えるストーリーを文化庁が認定する「日本遺産」。石を活用した中世・近世のまちづくりのストーリーが、5月20日に県内4例目の日本遺産に認定されました。

大量の石を用いて作られた一乗谷朝倉氏遺跡の城下町(福井市)や、石垣・石畳が続く白山平泉寺周辺(勝山市)など、石文化を伝える景観が見る人の想像力をかき立てる点や、まちづくりに使われた笏谷石しやくだにが今でも見られる点が評価されました。

## 若手職員がクレド(行動規範)づくりに着手 ～「県民主役の県政」へチェンジ～



職員が現場で自ら判断し、責任を持って行動する「徹底現場主義」を実現するため、若手職員10名からなるチームが、県職員の行動規範となる「クレド」(ラテン語で信条、志の意味)づくりを始めました。5月17日の第1回チーム会議には杉本知事も参加。福井県の目指すべき将来像や、クレドを職員に浸透させる方法について意見を交わしました。

クレドの施行は8月を予定。クレドに基づき、職員一人ひとりが県民の皆さんの声に耳を傾け、迅速に課題を解決していく「県民主役の県政」を目指します。